2023
10月

ゆうひろば

遊通信
第188号

後志地方のアイヌ史をめぐるバスツアーより
（2023年10月15日）

特集 関東大震災から100年

関東大震災と朝鮮人虐殺 ―記憶すべきは何か ・・・ 2
100年の記憶 ・・・ 4
映画「隠された爪跡」「払い下げられた朝鮮人」を観て ・・・ 5
関東大震災のドキュメンタリーを観て ・・・ 6
関東大震災から100年目の希望 ・・・ 7
差別と向き合う、差別を知る ・・・ 8
無関心と無意識の偏見 ・・・ 9
映画『福田村事件』 ・・・10

講座報告　連続講座「女性の貧困を考える」を振り返って ・・・・ 12
講座報告　「一期一会」 ・・・・ 13
講座報告　講座「現在と歴史」に触発されて ・・・・ 14
リレーエッセイ　私とさっぽろ自由学校「遊」（第7回） ・・・・ 15
連載　タントアナクネピリカ（第7回） ・・・・ 16
連載　フィールドワークな日々（第94回） ・・・・ 17
さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ など ・・・・ 18

特集　関東大震災から100年

関東大震災100年という大きな節目を迎えて、その目を覆いたくなる事実に向き合うことが、今必要だと思います。それは、過去の歴史であるとともに、未来への重い警告でもあるといえるでしょう。2年前に「東日本大震災から10年」を特集しましたが、関東大震災100年もまた未来に向けた特集です。巻頭を飾る林炳澤さんの「関東大震災100年と朝鮮人虐殺－記憶すべきは何か－」をはじめ、さまざまな角度から、関東大震災100年について投稿してもらいました。

関東大震災一〇〇年と朝鮮人虐殺
――記憶すべきは何か

林　炳澤

関東大震災は死者だけでも10万人超の、日本史上未曾有の大災害であった。しかしここで忘れてはならないことは、官憲からと思われる意図的なデマ（朝鮮人が井戸に毒を入れた、放火した）が流され、新聞が何の検証もなく扇動し、パニックとなった日本社会が約6千人もの朝鮮人虐殺を引き起こした「人災」でもあったということだ。

今年はこの大震災そして朝鮮人虐殺が100年目ということで、例年と比べ取り上げられる事も多かったが、それでもこの問題の本質がしっかりと見つめられているとは言い難い。それではこの事件の何が記憶されるべきか、二点述べたい。

一点目に、この事件は日本の歴史的過ち――〝朝鮮植民地支配〟に起因している事だ。侵略や植民地支配は常に支配者に優越意識を持たせ被支配者を蔑視する、つまり日本人は朝鮮人を排外し抑圧・差別していったのである。一方、被支配者は当然にも支配者に抵抗し解放を求め戦いを起こす、つまり朝鮮人は日本人へ様々な形で抗日闘争を展開していったのである。

こうした経緯の中で大震災4年前の1919年、朝鮮で「三・一独立運動」が起こる。この年3月1日、識者により朝鮮独立宣言文が発表され、それを契機に朝鮮全土で約200万人がデモ行進など行う全民族的な決起であった。

これに驚愕した日本政府は、武力弾圧で約2万3千人の死傷者を出し鎮圧した。これは日本の植民地支配下で起きた最大の独立運動であり、日本など海外での独立運動も活発化した。支配者はこうした被支配者の決起に対し警戒を強めると共に、その後の報復への潜在的恐怖を抱える事になっていく。

実はこの時、弾圧側だった朝鮮総督府の政務総監・水野錬太郎とその部下の内務局長・赤池濃は、その後の大震災時、それぞれ内務大臣、警視総監として治安警備に当たるのである。こうした事実は朝鮮人虐殺と無関係と言えようか。

関東大震災の朝鮮人虐殺について、震災への不安・恐怖と結びついた群集心理－ヒステリーとの指摘もあるが、歴史的視点を欠いては正鵠を得たとは言えまい。それではそうした歴史的清算は果たされたのであろうか。

二点目は、日本は国家として政府として朝鮮人虐殺を認め謝罪していない事だ。今年8月30日の記者会見で松野博一官房長官は「政府に事実関係を把握する記録は見当たらない。政府としては〝調査する意思はない〟」と答弁したが、何という恥ずべき態度か！記録というのなら司法省・官憲や裁判資料、目撃者や関係者と被害者や加害者の証言、自治体史や研究書に山ほど残されている。さらにつけ加えれば、2009年日本政府の機関である内閣府中央防災会議（災害教訓の継承に関する専門調査会）が「1923関東大震災報告書」を出し、そこでは「殺傷事件の発生―殺傷事件の概要―朝鮮人への迫害」として、朝鮮人虐殺数などを〝被災死者数の1～数％…法的記録と公文書に依存した叙述〟と記述、つまり1千～数千名と認定しているのである。この報告書は政府見解ではないのか！

そして恥ずべき人物がもう一人いる。小池百合子東京都知事である。毎年、多数の被災者を出した東京都墨田区の横網町公園で追悼大会が催されているが、その一角で朝鮮人犠牲者の慰霊祭も行われている。その主催者は小池都知事に追悼文の送付を求めているが、知事は2017年以降拒否し続けているのだ（歴代知事は送付し、右派の石原慎太郎知事でさえも送付しているのに）。小池都知事はその弁明として〝様々な見方がある、歴史家がひもとくもの、全ての犠牲者に追悼の意を表している〟と強弁する。しかし住民惨害への見解・姿勢を示すのは地域首長だからこその責任であろう、また人手による災害と自然災害は違うではないか。これが一国の首都のリーダーの人権意識、国際感覚、歴史認識か、お粗末な極みである。

結局、日本はジェノサイドと言える重大な朝鮮人虐殺について、これまで一言の謝罪も行っていない。それが1995年の阪神淡路大震災、2011年の東北大震災、またその後の災害においても〝韓国・朝鮮人や外国人の犯罪発生〟というデマを流布させているのだ。さらに21世紀に入り大きな社会問題になっているヘイトスピーチにも、〝朝鮮人虐殺の呼びかけ〟が登場しており、これらも日本政府が支え、お墨付きを与えている結果と言わざるをえないであろう。

林 炳澤（いむぴょんてく）
NPO法人さっぽろ自由学校「遊」共同代表

自然食ホロ
札幌市東区中沼西
5条2丁目3－16
TEL：887-6224
いつも喜んで、
感謝して。
http://holo.sunnyday.jp/

特集

100年の記憶

曺金 時江

もう4年まえになるだろうか、感染症で初めて公共施設が閉鎖になったのを知らずに、エルブラザに行きました。パイプのシャッターが降りて人の気配がまったくなし。地下通路を通り賑やかな商店街に出るまでなぜか誰とも出会いませんでした。怖かった！横から誰がか出てきて襲いかかられるような恐怖がわき「怖い」「怖い」と言いながら人のいる方向に足を早めました。

今年初めてアラートがなり地下鉄が止まり下車させられました。その時誰かに自分の存在を知らせたくて友人に電話をしながら、私はこの国で死ぬまで生き抜くことができるのだろうかと思いました。30年以上も前に関東大震災の資料と下町での詳細な証言集を読んだ時の、今にもドアを破って誰かが襲ってくるような不安な記憶かよみがえってきます。

関東大震災から100年の今年は、地震発生の地、関東では様々な取り組みが行われ、東京で開かれた国際シンポジュウムで講演をした川崎の女性は「まだ、殺されていないだけ」と話されたと言う。彼女はまだ防刃チョキを着続けているのだろうか。札幌では私の知る限りで、

- **講演会　8月26日**
  「コリアンジェノサイド論―関東大震災朝鮮人虐殺の国際法」講師 前田 朗
- **9・1街頭宣伝**
- **講演会　9月15日**
  「関東大震災朝鮮人虐殺の背景とその責任」講師 金哲秀（キム チョルス）
- **「遊」講座　10月2日**
  「関東大震災証言から見えてくるもの」講師 西崎 雅夫
- **上映会　10月7日**
  「隠された爪跡」「払い下げられた朝鮮人」

等の取り組みがあり、どの企画もインパクトのある内容でしたが、前田朗さんは関東大震災を地方の出来事として矮小化するのではなく植民地ジェノサイドとして世界史的視点からとらえ、国際法とあわせての解説でした。上映会アンケートでは、デマや流言で朝鮮人や日本人が犠牲になったことを知らなかった人も、知っていた人もここまでひどい内容とは思わなかったとの記載が見られました。上映会賛同依頼文に殺される側にも、殺す側にもならないためにもと書いたのは、似たような状況になったときに 誰が私たちを守ってくれるのかという思いがあったからです。映画「福田村事件」を見ながら、行商人が朝鮮人ならリベラルな村長さんや村人はどうしただろうかと思いました。村長さんの「日本人です」「日本人です」の叫びを聞くのは苦しかった。100年前の事件は現在も続いているから。アイヌ民族の遺骨を盗掘したこと、沖縄の遺骨混じりの土砂を再び戦争のために使用すること、国内にある朝鮮人の遺骨の返還や100年前の関東大震災で犠牲になった朝鮮人の遺骨を証拠が残らないように池にまいたこと。みんな通低していることと思います。どれも国家からの謝罪もなければ、誠実な調査も行われていません。それでも記憶している限りは埋もれさせずに伝え続けて行けるでしょう。100年目の希望は私の、私たちの希望でもあります。

曺金 時江（ちょきむ しがん）
茶門セミナー・ハンマダン主宰・札幌在住
ダークツーリズムツアー企画等

特集

映画「隠された爪跡」「払い下げられた朝鮮人」を観て

糟谷 奈保子

ドキュメンタリー「隠された爪跡」「払い下げられた朝鮮人」を視聴するまでは関東大震災ついては、大正時代のドラマを通して大変な惨事であったこと、その後の防災の基礎となったことくらいの知識しかなかった。小池百合子東京都知事が朝鮮人虐殺の式典に追悼文を送らないというニュースも、朝鮮人が井戸に毒を入れたなどのデマが流れたということもメディアで知っていたが、日本人全体の問題とはとらえていなかったように思う。しかし、真実はあまりにもひどい朝鮮人大虐殺であった。

上映会の前の10月2日遊講座「日本の植民地主義を考える」で「関東大震災から見えてくるもの」の講師「ほうせんか」の西崎雅夫さんの資料から。海軍無線送信所が全国に送信。「鮮人各地に放火し、不逞の目的を遂行せんとし、東京市内において爆弾を所持し石油を注ぎて放火するものあり。鮮人の行動に対して厳密なる取り締まり加えられたし」また新聞社が「鮮人が襲撃するから用心せよ」と自動車で触れ回っている。「不逞先人がいたるところでめった切りを働き、警官と衝突」などの記事も書いている。この公から発したともいえる流言飛語により住民は殴り殺す、両手をもって火の中に投げ込むなど、普段なら決してできない残酷なことができてしまっている。当時子どもだった人が事実を証言している。虐殺を止めることは人がいたけれど止めることはできなかった。映画『福田村事件』でも止めることができなかったことが描かれている。

そしてこのことに向き合わなければといつも考えます。このドキュメンタリー上映を再度希望し、いまだに続く差別について考えていきたい。

糟谷 奈保子（かすや なおこ）
ドキュメンタリー関東大震災を見る会

特集

関東大震災のドキュメンタリーを観て

佐々木（札幌市在住）

先日、某官房長官が関東大震災時の朝鮮人等虐殺について「事実関係を把握できる記録が政府内に無い」と発言し、批判を浴びていた。「歴史修正主義が遂にここまできたか」と暗澹たる思いだった。なぜなら、虐殺があった事は政府の会議でも報告され、内閣府のホームページにも載っていたのだから。しかし、その記述が2017年に削除され、その年から東京都知事は追悼式典に追悼文を送らなくなった。歴史修正主義はジワジワと日本社会を侵食している。

虐殺から100年目というこの年に「くる所まできた」と思わずにはいられなかったのだが、そんな折に『隠された爪跡』（1983）『払い下げられた朝鮮人』（1986）という記録映画を観る機会を得た。ものすごく貴重な体験だった。40年程前には、実際に虐殺を辛くも生き延びた、或いは虐殺を目撃した、つまり体験者・証人が存命で、自らの体験を証言してくれているのだ。衝撃的で酷過ぎる内容が語られてゆく。虐殺を生き延びた曺仁承さんの話が凄まじい。曺さんの奥様の口からも、曺さんがPTSDに襲われて苦しむ痛ましい様子が語られる。他にも色々な証言や数々の写真。観ていて打ちのめされたのが、人間性を完全に捨て去ったような日本人の蛮行の有り様。遺骨を野にばら撒く、保護の名目で収容した朝鮮人を村人に払い下げて殺させるなど、よくも、なぜ、そこまでの事ができたのだろう、と。

4年前の日韓連帯アクションで、在日3世の女性が語った事。

「私は在日3世で、こうやって顔を出すのはできれば避けたい。私は日本生まれ、日本育ちで、韓国語はしゃべれません。『韓国に帰れ』と言われても、帰れません。私たちは今、生きるか死ぬかの瀬戸際にいると思っています。今の時代は、個人情報を簡単に渡せるので、突然いろんな人がやってきて、連れ出されて殺されるってことも想像しています。それは私だけじゃなくて、在日の人みんなが少しは考えていることです。私は殺されても構いません。でも、私より若い世代、これから生まれてくる子どもがこの国で安全に生きていけるようにしてください」

「お友だちとか家族とかで『韓国って危ないよね』『謝罪謝罪言い過ぎだよね』と言われた時に、『そうだよね』と流すことがあると思うんです。そんな時、あなたがそう思わないんだったら『私はそう思わない』って言ってください」

「私たちの社会は急には変わらないけれど半径5mを変えていくことはできます」

マイクを持つ手がぶるぶる震えていた。

日本はまた同じ過ちを犯すだろうか？はっきり言って充分にあり得る事だと思う（虐殺が偶発的でなく仕組まれた可能性そして現在進行中の歴史修正主義を含め）。

映画の中の救いと希望は、生き延びた曺さんと、日本人の証人が荒川べりで手を取りあって泣く場面や、美しい慰霊の鐘楼が観音寺に取り付けられる場面等。でも、（あえて言うと）日本人が救いを得る為には、半径5mを変える為の果てしないたゆみない日々の努力が必要だと思う。

特集

関東大震災から100年目の希望

慎 民子

東京東部を流れる荒川は人口の川で、関東大震災の時は完成間際で多くの朝鮮人が働いていました。当時の工事現場から現在の東京スカイツリーまで3キロ余りしか離れていません。スカイツリー南部は震災時の大火に見舞われ数万人が亡くなった地域です。避難民が、工事中の荒川の四ツ木橋周辺に推計2万人も集まりました。地震から数時間後には「朝鮮人が井戸に毒を入れた」「あの火事は朝鮮人が火をつけた」などの流言が流れ、「その晩から虐殺が始まった」「軍隊が来て、朝鮮人を針金で縛って並べて機関銃で撃った」「死体にガソリンをまいて焼くにおいがひどかった」「死体を埋める穴を掘らされた」「死体の山を見た。女も子どももいた」という場所です。地域の古老たちの証言を聞いた者たちが「関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し追悼する会」を発足し追悼を続け43年になります。

私は、20代のころ事件を知り、ひとたび地震などが起きたら、隣近所の人たちが私を殺しに来るという恐怖を覚え「私の生きづらさは殺される側の人間だったからだ」と合点。そして、殺されないためには「殺さない人を増やすしかない」と結論付け、本名を名乗りながら日本人社会を生きることにしました。そうこうして、20年後に「追悼する会」に出会いました。会の方たちは加害責任を問おうと事件に取り組む日本人たちでした。水を得た魚とは当時の私のことです。直ぐに仲間に入れてもらいました。

近年、事件をなかったことにしたい人たちが声をあげています。朝鮮・韓国人へのヘイトスピーチや放火・脅迫などの暴力と重なり、100年前の恐怖が甦っています。「殺される恐怖」と「殺してしまうかもしれない恐怖」が再生産されています。これは、必ず止めなければいけません。

打つ手があれば、返す手が現れる。2017年からの小池都知事の「追悼文送らない判断」に疑問を持った20～40代の日韓の若者たちが集い「100年＝ペンニョン」というグループを立ち上げ、事件を学び共有し、「繰り返さない＝殺させない」取り組みを始めました。国籍や出自・性別、どんな差別も暴力も許さないという思いが大きなパワーとなり広がり続けています。これは大きな希望です。彼・彼女らは、新しい100年の始まりを歩み始めています。

慎 民子（しん みんじゃ）
（一社）ほうせんか理事

憲法を私たちの生活に！
厚別９条の会
会員は厚別を中心に、沖縄のアメリカ兵まで約100名
共同代表　渡辺 信一
TEL.090-6218-8284　FAX.011-897-8390
E-mail：mbwatanabe@yahoo.co.jp

いつだって No Nuke！

北海道のエネルギーの未来を考える
10,000人の会

特集

差別と向き合う、差別を知る

佐々木 カヲル

私は、さっぽろ自由学校「遊」の講座「日本の植民地主義を考える―共につなぐ未来のために」を受講している一人です。在日の方の境遇については、今、知り始めたばかりです。私が講座で学びたかったことは、まず、現状を知り、そして、その背景にある歴史的経緯を知ることでした。

ところで、私のきょうだいは3人で、7つ上のきょうだいは、すでに亡くなっています。生きていれば、61歳です。そのきょうだいは、戸籍上の性別は「女」ですが、「中性」を自認し、一人称は「僕」でした。生前、「僕」は多くの社会的課題に関心をもっていました。私は、「僕」から、指紋押捺拒否のことや強制連行、そして、いわゆる「慰安婦問題」などを聞いていました。「僕」は、学生時代、韓国に短期滞在し、ハングルを書き、朝鮮語で現地の方と交流し、歓迎されたと話していました。それは、韓流ブームなどがくるよりずっと前のことで、韓国旅行をしたという話を身近に聞くこともなかった時代です。

私は、2021年6月9日に北海道と地方職員共済組合を相手に提訴した元道職員SOGIハラ訴訟、いわゆる「同性間の扶養認定」をめぐる違憲訴訟の原告です。この裁判は、2023年9月11日札幌地方裁判所で「請求棄却」の判決が言い渡され、私が控訴しないことを決めたので、全面敗訴で終わっています。

また、この訴訟は、異性カップルであれば、内縁、事実婚でも認められる福利厚生制度を、戸籍上同性のカップルにも認めて欲しい。制度から排除しないで欲しいと願うものでした。私は、「特別待遇」や「特別扱い」を求めたつもりはありません。他の職員と同様に扱って欲しいと求めていたのです。なぜなら、私は、北海道職員だったとき、他の職員と同様に税金を納め、共済掛金や互助会費を支払っていたからです。

しかし、判決は、憲法判断に立ち入ることなく、国家賠償法上、被告らの行為が適法と結論付ける不当なものでした。私は、今の自分や自分とパートナーとの生活を優先するために控訴しませんでしたが、世の中には、マジョリティが気づかないマイノリティへの差別があり、そのような差別が堂々とまかり通っていることを知っていただく機会にはなったかもしれません。

ところで、差別の対象になっているマイノリティが声をあげるのはとても難しいことです。マイノリティが声をあげたとしても、小さな声は、大きな声にかき消され、排除されることがほとんどです。

また、「マイノリティの問題はマジョリティの問題だ」という言葉を聞いたことがあります。在日の方が抱えている問題も、日本政府、日本社会が真摯に向き合わなければ解決できないと思います。我々日本人にできることは、まず、差別について知ること、差別を自分ごととして捉え、自分なりにアクションを起こすことだと思っています。選挙権をもつ私たちが、多様性の尊重と公正な社会のあり方について考えるべきだと思います。

佐々木 カヲル（ささき かをる）
札幌市在住。フリーランスの社会福祉士。LGBTQ当事者（ノンバイナリー、戸籍上同性のパートナーと生活）。元道職員SOGIハラ訴訟原告。

特集

無関心と無意識の偏見

西千津

2021年3月にウィシュマ・サンダマリさんが名古屋にある入管収容施設で亡くなった真相も解明されないまま、難民審査を行う参与員の担当する人数に大きな偏りがあったことがわかったり、収容施設を担当する医師の飲酒問題なども明らかになったりしたにも関わらず、今年6月、出入国管理及び難民認定法（入管法）の一部を改定する法律案が成立した。

今回は、人権擁護団体、外国人支援団体が声を上げる中、当事者である非正規滞在の子どもたちも声を上げた。指定された居住地以外の県への移動が許されてはいないのを重々承知の上、国会議事堂前に集まったのだ。彼らはそうせざるを得ないほど追い詰められていたのだ。その結果、親に犯罪歴がないなどの条件付きではあるが、在留資格のない18歳未満の子どもとその親に後日、法務大臣による特別許可が付与された。彼らはずっと前から存在していたが、難民も非正規滞在者も少ない北海道ではその存在を知る機会は少ない。

外国人を取り巻く大きな変化が、もう一つ、この秋に予定されている。「外国人技能実習制度」の見直しである。今回の見直しでどんなふうに変わるのか、そう問われることもあるが、私は制度だけが課題だとは思っていない。技能実習生や特定技能の人々の相談を受ける度に感じるのは、雇用主や関係者の無関心と無意識の偏見である。同じことを日本人労働者にするだろうか？と思ったり、言葉も習慣も違うのに頑張っている彼らの日本語から何を判断したのだろうかと思ったりする状況に出会う。手続きに訪れた際に日本人が同行するだけで全く対応が違うという話もよく聞く。悪いばかりではなく、企業でも自治体でも良い事例はたくさんある。この違いは何か。「労働力」ではなく、「人」として見ているか否かだと私は思っている。

今年は、関東大震災から100年、北海道胆振東部地震から5年を迎えた。関東大震災から100年と言うことで報道番組では特集が組まれ、『福田村事件』という映画も上映されていたことをあなたはご存じだろうか。今、スマホを手に私たちが得る情報の不確かさを知っているはずなのに、無関心と無意識から不安や恐怖が生まれ、行き交う情報に翻弄されてはいないだろうか。

阪神淡路大震災、東日本大震災を経て、北海道や札幌市では胆振東部地震でやっと自分事として防災を考えるようになったと思う。観光客誘致のために使われていた予算は、災害時にあふれる外国人観光客を想定していなかった。ここにも無関心と無意識があったと思う。改めて考えて欲しいことがある。100年の時を経て、人が自由に移動するようになり、生き方は多様化している。外国人ではなく、外国に繋がる人々という表現も生まれているのに、100年の時を経ても無関心と無意識の偏見がたくさんあることを知って欲しい。多くの人の関心と意識が変われば、見直される制度は意味あるものになるかもしれない。

西千津（にしちづ）
カトリック札幌司教区職員。難民移住移動者委員会担当。特定非営利活動法人 移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）理事。

特集

映画『福田村事件』

七尾 寿子

関東大震災から5日が過ぎた1923年9月6日、千葉県の福田村で、香川から来ていた薬売りの行商団15人のうち、幼児や妊婦を含む9人が村人たちに虐殺され川に流された事件が起きた。讃岐弁で話していたことが不逞朝鮮人であると思われたことによるという。この史実は、長い間ほとんど知られることがなかったが、ドキュメンタリー作家の森達也監督が、関東大震災100年を前に劇映画化した。

事件に至るまでの加害者、被害者たちの群像劇で、当時の社会背景、植民地支配の歴史が人物像に織り込まれて、それぞれ存在感があった。

朝鮮から教員をやめて村に戻った智一は、日本軍が堤岩里（チョアムリ）教会に村人を導き入れる通訳をして、焼き殺したという痛みを抱え、大学出の村長・田向は、大正デモクラシーに傾倒しているが、村からは浮いているように見える。

映画「福田村事件」公式サイトより

鬱屈した同調圧力の強いムラ意識の中で、在郷軍人会の分会長である長谷川は、いつも軍服を身に着け威圧的だ。

新聞記者の楓に助けられて誰何を切り抜けられるかと思ったのに朝鮮飴売りとバレた少女は、「アタシノナマエハ、キム・ソンリョ」と凛として叫びながら竹やりを突き刺される。

行商団は、被差別部落の出身者たちであった。ハンセン病の患者をだまして薬を売りつけもするが、「水平社宣言」が語られるのは切なく、感動的だった。

行商団の親分新助が叫ぶ、「朝鮮人なら殺してええんか」が、この映画の肝だと思う。

朝鮮独立運動に対する日本軍の暴虐、官憲によるデマ拡散、社会主義弾圧等。

観終わって思ったのは、差別は憎しみ、恐怖を生み、暴力、人殺しへと連鎖するということ。私は駆り立てられてしまう側にならないか、踏みとどまり、止める冷静さと勇気を持てるか？

殺したのは一般の人々だった。生活用具の鎌や斧、そして竹やりが武器。幼児を抱いて逃げ惑う母の「この子だけは助けてください」という叫びに、殺意が揺らぐことはなかった。

とにかく、事前から関心の高い映画だった。シアター・キノでの監督を招いての上映は、8月18日だった。予備椅子もびっしり埋まった会場で全国封切の9月1日の前に初上映と

映画「福田村事件」公式サイトより

いうことになったのは意図したわけではなかったと小林プロデューサーは語ったが、関東大震災から100年は、朝鮮人虐殺100年であるというこの映画への注目度が、いかに高いかを示した。

アジアで名高い、釜山国際映画祭のニューカレンツ賞（アジアの新人監督が参加するコンペティションの最優秀作品賞）を受賞。森達也監督も劇映画では新人監督というわけだ。映画祭での3回の上映も大盛況だったという。

クラウドファンディングで3500万を集め、それでもロケバスも使えず、緊縮財政で苛酷な撮影だったというが、10月12日までで133劇場で上映。観客動員数15万人を超え、興行収入も2億を超えているという。

これは、観るべき映画だと締めたいが、蛇足を少し。

釜山国際映画祭受賞のニュースは、韓国旅行の途中で聞いた。

その後、「国立望郷の丘」の海外同胞の墓園へ友人の林炳澤（イム・ピョンテク）、金貞礼（キム・ジョンネ）さんのご親族のお墓参りに同行した。その一角に「日本國関東大震災埼玉県北地域在日同胞犠牲者　慰霊碑」があった。2003年建立とある。

ふと思った。そうか、『福田村事件』は、日本人の視点の映画なのだ。

大震災の中で排他性や流言飛語に惑わされる人間の普遍的な脆さ、弱さに切り込んだ映画だと思ったが、あくまでも視点は、日本人なのだ。

殺された多くの朝鮮人の視点で描く映画はどのようなものか？

望郷の丘の慰霊碑

さて、あらためて締めよう。『福田村事件』は、観るべき映画だ。お薦めする。

七尾 寿子（ななお ひさこ）
さっぽろ自由学校「遊」会員

在日コリアン ドキュメンタリー映画上映会

「朝鮮人 BC 級戦犯の記録」

制作：本橋雄介 日本映画学校卒業制作作品（1996 年、62 分）

「戦後補償に潜む不条理 ―韓国人元 BC 級戦犯の闘い―」

制作：法政大学鈴木靖ゼミ（2007 年、27 分）

■日　時　2023 年 12 月 16 日（土）13:30 開演
※当初の予定（11/18）から延期となりました。ご了承ください。
■会　場　愛生舘サロン（愛生舘ビル 6 F 南側奥）
■参加費　500 円　※会場にて受けつけます
共催　茶門セミナー・ハンマダン／さっぽろ自由学校「遊」

講座報告

連続講座「女性の貧困を考える」を振り返って

雨宮 恭子

講座の振り返りに視点を当てた原稿をとの依頼で、コーディネーターの話し合いを基に自分の考えも加え次の文章を書いてみた。

【講座の概要】新自由主義が進む中、格差社会は広がり女性の貧困は加速している。その現状を知るとともに解決策を探る。

《各回の内容》①『困難な問題を抱える女性支援法』、②若い世代の現状と支援、③コロナ禍で鮮明になった貧困、④女性労働、⑤解決策

【内容】

○実際に支援に取り組んでいる方たちに話題提供してもらい、女性の貧困の現状を知ることができたし、講師同士の交流にもなりよかった。

○1～4回目の講座のまとめを作り、連続講座としての流れが見えるようにしたことはよかった。

○生活保護一つとってもその機関や施設ごとで、どう捉え活動に生かしていくのか考え方がそれぞれ違うことが分かった。

○夜職（主として「水商売」を指す）についての扱いが甘かったのではないか。これだけで一回のテーマになる問題であった。

○このテーマで講座を持ったことは意味があったがまだまだ掘り下げる余地があり、関連講座の企画が待たれる。

【今後考えられる関連講座について】

○「貧困問題の実際的な解決の仕方について」

○「他の分野の貧困問題について」

○「女性の政治参加をどう加速させるか」

【参加者】

ある程度の参加者はいたが、年齢層が高かった。若い女性の現状や支援をテーマとしており、講師も若手が多かったので、もう少し若者の参加があると良かった。若者向けの宣伝の工夫が必要だったのでは…。

【アンケート】

講座の満足度や感想を書いてもらう簡単なアンケートをとった。オンライン参加者はネット上で答えてもらうようにしたがネット上にあげたのが遅く回答が少なかった。

【振り返りについて思うこと】

前期の講座のまとめをしながら後期の講座の準備をするのは大変で、ほとんどの講座できちんと振り返りができていないのが現状だと思う。講座を企画し、実践し振り返り更に次の企画に生かしていくというサイクルが定着していくことが望ましいが、前期のまとめと後期の準備を並行して進めている現状ではそれは厳しい。

根本的な解決策ではないが、共通の振り返りシートなどがあるとよいのではないか。全部の講座で取り組めるし、理事会や会員に各講座の動向が伝わり今後の講座の在り方を考える上での資料にもなるのではないだろうか。

雨宮恭子（あまみやきょうこ）
さっぽろ自由学校「遊」理事・趣味は畑仕事

オーガニック・自然食品専門店
らるバタ
おべんとうとおそうざい
らるごはん
札幌市中央区大通西23丁目
Tel 614-2406 Fax 614-3836
http://rarubatake.com
10時～19時(日～17時・祝～18時)

講座報告

「一期一会」

長岡 伸一

「ミュートをはずして、画面をONに切り替えて皆さんなるべく顔を見せて下さい！」

講座の後半は、自由な質疑応答の時間だ。会場＆オンラインの併用が今や日常化した「遊」で講座コーディネータ役の僕は、手をあげたそうな人を見逃さないよう教室に目を配る。

一方、オンライン受講者の数は、白板の下方に表示され、26人に増えていた。PC操作をインターンの大学生に任せて受付席から全体を把握する事務局長の小泉雅弘さんが、挙手している人を画面の中に見つける。質問者は開口一番、意外なことを言った。「このあと長岡さんに会う予定になっている大竹英洋です…」 ??僕は目が点になった。

実は、講座の直前、懐かしい旧友から数年ぶりのメールが来た。北大で開催される国際シンポ「先住民観光の挑戦」に参加するため札幌へ行くので前日に会いたい。もう一人、カナダを拠点に活動し、土門拳賞も受賞した写真家も合流したい、と。定年退職して3年半の僕には涙が出るほど嬉しい再会のはずだが、9月13日（水）は「20世紀を切り開いたアイヌ列伝」パート3・第6回「川村カ子トとアイヌ記念館の未来」、副館長の川村久恵さんのリモート講座だ、と僕は返信した。

旧友の話では、写真家は今回、浦幌や白老も精力的に取材し、その足で大阪の民博にも飛ぶ。そんな強行軍の中で札幌の宿泊先から川村さんの講座も受講してくれた、というわけだった。対する川村さんは、マレウレウの公演活動で引っぱりダコの人気。日曜に浦河でアイヌ音楽祭に出演した後、60もの国と地域の旅行業関係者が札幌に集う観光サミットの開会式のステージにも立った、と僕は後で知って恐縮した。様々な人々が交錯し奇跡が起こるのは、「遊」という名の磁場の力である。

「列伝」パート3に花崎皋平さんもぜひ！と僕が直訴したのは去年12月、600ページ超の新著『生きる場の思想と詩の日々』の読書会の最終回の席上だった。北大開示文書研究会ニューズレター29号（2022年2月発行）に殿平善彦さんが、上西晴治の『十勝平野』の熱い書評を寄稿し、その中で「ラポロアイヌネイション会長の差間正樹さんと上西晴治は縁続きの親族」と書いていると僕が気づくのは、かなり後のことだった。

そして、列伝パート4・第1回10月11日、小樽の平山裕人さんの「違星北斗」講座では、前年6月の「違星北斗の東京を読む」の講師で、直後に『違星北斗歌集』（角川ソフィア文庫）を出版した山科清春さんから、声援とともに、添付同報済み資料の間違いの指摘も返って来た。平山さんもすぐに対応。お二人とも懐が深い。質疑応答では、60歳くらいの男性が手をあげた。「子どもの頃、違星家の近所に住んでいた。祖父は違星北斗と同年代で、ガッチャキの薬を樺太へ売りに行っていた…」と、手元のスマホ画面で証拠資料を見せてくれる。講座の輪が時空を超え始めた。だから、コーディネータはやめられない。

長岡伸一（ながおかしんいち）
元NHK札幌放送局番組制作ディレクター。2022年度の〝核ゴミ〟講座に2回登壇し、33年前の泊原発関連TV取材体験を報告。

講座報告

講座「現在と歴史」に触発されて
―現在（いま）と未来（あした）への展望を見出したい

桐田 雅則

作家・奥泉光さんは、「戦争体験」は有り余るほどあるのに、日本社会はそれを十分に「経験化」できていない と言う（「この国の戦争」加藤陽子との共著）。あの戦争の（無謀さ、非合理性、無責任体系…）といった〝失敗の本質〟は様々に論じられていながら、「それを『国民集団』として 反省的に 言語化し、教訓 として共有したことは一度もない」と。

昨年8月に亡くなった精神科医師 中井久夫さんは、戦争を「過程」、平和を「状態」と位置づけて論じ、「過程」は 物語 として人を惹きつけやすいが、「状態」は 退屈で心に訴える力が弱い。そして、多くの人間は 端的に「平和」よりも「安全保障感」を求めていると言う。だから、『『安全の脅威』こそが戦争準備を訴えるスローガンとなる」のだと。…妙に納得してしまう。

この講座の期間中に私は、二つの映像を見る機会があった。…『福田村事件』（監督 森達也）と米海兵隊新兵教育『ブートキャンプ』（森の映画社）

震災時の数々の〝虐殺〟について森監督は、「普通の人が普通の人を殺す…喜怒哀楽を持った普通の人が 群れると『集団のスイッチ』が入って凶行を犯す…歴史はそれを繰り返してきた」と語っている。

講座で触れた澤地久枝さんの「（集団として の民や兵でなく）一人ひとりの生きた人間の姿を見ることが大事」との言葉が重い。

そうなのだ。これまで戦争が語られるときは、大体が戦闘の局面が中心で、そこでの「生活」という視点が抜けがちだったと思う。「国民であれ兵士であれ、お腹が空くしトイレも必要」「攻撃する側は〝敵の生活〟を破壊しようとし、守る側は生活を保とうとする」つまり「戦争の本質は『生活』をいかに保つかどうか」なのである（作家 深緑野分「戦場のコックたち」）。

「うしろの正面だぁれ」の著者 海老名佳代子さんはこう語っていた。…「戦争中は 意識が高揚 していたから、（9歳の子どもでも）勝つためには命を捧げてもいいんだ という気持ちになっていた。…でもね、ふと我に帰ると、もうとにかくお腹が空いて…」やはり生活（食）を見なければ戦争の実相は掴めない。そして…〝意識の高揚〟これは多分〝集団のスイッチ〟と共通している。その正体は何か？

『ブートキャンプ』では、新兵は着任したその瞬間から、一昼夜不眠のまま（ここで文字にするのもおぞましい方法で）〝教育〟される。数日のうちに、絶対服従、即時反応 が身に付き、2か月もすると、〝敵〟を躊躇なく殺せるまでになる。〝戦争マシン〟の促成 である。

考えてみれば、日本でも同じことがあったことに気づく。…ただ、それは促成ではなく長い時間（50年ほど）をかけて作られた。

伝統的な農村共同体の死生観を巧妙に利用し、国民の精神改造を成し遂げてきた。そこに、学校と、新聞やラジオ、映画などメディアが果たした役割は、とてつもなく大きく罪深い。

桐田 雅則（きりたまさのり）
知床100㎡運動推進北海道支部

リレーエッセイ　私と、さっぽろ自由学校「遊」　第7回

花さんの思いが貫く「遊」の広場性

山本 伸夫（やまもと のぶお）

自由学校「遊」の存在を薄々知ってはいたが、初めて訪問したのは2002年10月のある昼下がりだった。事務室と教室は当時、愛生舘ビルの南側玄関から細い階段を上がった2階にあった。

いまさらながら、「意外なこと」として思い出すのは、応対してくれた事務局の小泉雅弘さんの若々しい風貌。断片を記憶の底から拾い出すと、力まない話しぶりは今と同じだったこと、北大在学中に世界先住民族会議への参加で「遊」への関わりが決定的になったこと、アルバイトに塾教師をしているとのことだった。

その小泉さんから得た情報で私の興味を引いたのが、訪問の数日後、10月21日に大通で行われるというピースウォーク。前年に起きた米国中枢9・11テロに対し、米国はアフガニスタン総攻撃の準備を進めていた。ピースウォークは「テロにも報復にも反対！自衛隊派兵を認めない！」と呼び掛ける、という。「遊」はその事務局を担い、反戦運動の中核だった。

国際反戦デー「10・21（ジュッテンニーイチ）」とデモ。30年前のベトナム反戦世代の筆者としては、関心がむらむら沸いた。まして、事務局の「遊」の創設メンバーの一人、花崎皋平さんは札幌べ平連（注：「ベトナムに平和を！市民・文化団体連合」の略として「べ平連」）を呼びかけた人だ。

花崎さんには、筆者はさらに別の関心があった。花崎さんは北大助教授（現在の准教授）だった1960年代後半、大学改革を目指す全共闘運動に理解を示し、大学を占拠・立てこもって逮捕された学生の裁判の特別弁護人となり、裁判終了後には大学を辞め、以降も教職についていない。当時〝造反教員〟といわれた先生・学者は多くいたが、全共闘運動終焉まで自らの信念に基づいて実際に行動し、しかも進退に潔かった知識人は数少ない。

「風はおのが好むところに吹く」（1976年刊、田畑書店）など著作も読んでいたが、それまで取材できる仕事柄を生かせず、肉声を聞いたこともなかった。会社勤めしていることに臆するところが筆者にあった。

その花崎さんはピースウォークの集会で、「冷静に理性的に、人類が積み重ねた人権主義に基づき平和を回復すべきだ」と話した。今でこそ平和や反戦の運動に「人権」を持ち込むのは当たり前だが、花崎さんの健在ぶりを確認した思いだった。（2002年10月23日道新夕刊のコラム「今日の話題」）

この取材を機に、「遊」の活動に一層関心が深まった。退職した2010年代半ばからは、花崎さんをチューターとする読書ゼミに参加し、最近では「花さんと詩を読む」講座のコーディネートもさせてもらった。詩人でもある花崎さんの話を引き出す役割なのに、その責を十分に果たせなかったように悔やまれる。参加者一人一人の感想、とりわけ女性の発想が興味深く、話が弾んだためでもある。参加のだれもが対等な立場で話すという花崎さんの思いが働いていたといえる。

（元北海道新聞記者）

タントアナクネ pirka ピッカ

原田 公久枝

第7回

『週刊金曜日』創刊三十周年記念イベント「崔善愛（チェソンエ）ピアノ&トークショパン花束に隠された大砲」に行った。

祖国を奪われ続けたショパンと、指紋押捺を拒否して再入国できなくなった崔さんの気持ちがリンクして「革命のエチュード」の彼と彼女の絶望するまでの怒りを思って涙した。

演奏が終わり、逡巡しながらも拍手をすると、彼女は「この曲は拍手をするような曲ではない」と言いながらショパンの曲は全てがそうなのだと解説してくれた。そうなのだ、人の生々しい感情に拍手など…と思い逡巡したのだ。

しかも彼女が再入国できなかった国は日本なのだ。崔善愛さんという名前でわかる通り、彼女は韓国の方だ。戦争により、のっぴきならない事情で、在日と言われる立場になったが、兵庫で生まれて福岡で日本語で育ったので韓国語はわからないそうだ。そんな彼女が、米国インディアナ州立大学の大学院に3年間留学。その時、外国人登録の指紋押捺拒否を理由に「再入国」が不許可となり永住資格をはく奪されたのだ。

それを考えると私は怒りと悲しみで涙していたのだ。何層にも重ねられた長年の差別、踏みにじられた人としての尊厳、日本という国が犯してきたむごいことのむくいを、なぜむごいことをされた側の崔さんが引き受けなくてはならないのか。

私の祖国は日本だし私を育てたのはこの北海道という土地だが、私はアイヌだ。国籍は日本だが、日本人とは言い切れない…言い切らせてもらえない差別の記憶がある。それは現在進行型であり、夏に〝アイスクリーム〟というのぼりにギクッとするほど骨の髄までしみわたっているモノだ。だがしかし私が愛し心安らぐ祖国は日本でしかない。

だからこそ私が受けてきた差別の記憶が私を苦しめる。これまで私は、そのことを知ってもらいたいから話してると思っていたが、違う。私は怒っているのだ。それは怒りというなまやさしいモノではなく、憤怒というべきモノであり、それを聞いた和人には反省してもらいたい、謝ってもらいたい と心の中で血の涙を流しながらずっとずっと怒っていたことに気づいた。

そんなことにも気がつくことが出来ない程、政策的にも日常的にも、ありとあらゆる方法で、アイヌも、在日韓国人も、ＬＧＢＴも、障がい者も、すごく上手に差別し続けるこの日本という国。そしてそれに関心すらない一般的なごく普通の日本人の方々。私は一体、何に向かって怒り続けなければいけないのだろうか。

原田 公久枝（はらだ きくえ）
札幌在住。18才年上の旦那有り。子どもなし。集金と配達のパートをしながら、アイヌの活動（歌・踊り・講演・執筆・お笑い等）をしている55歳です。

Simple Life, High Thinking
小４から高３まで
スコーレ ユウ
〒007-0866 札幌市東区伏古６条４丁目4-21
TEL. 785-0228

フィールドワークな日々

宮内泰介の

第九四回　ソロモン諸島再訪

この八月、十五年ぶりにソロモン諸島を訪れた。

私がソロモン諸島に通い始めたのは今から三十年前。三十歳だった。マライタ島の村に在住するエディ・エリファウさんに出会い、以降十数年の間、毎年のように通った。しかし二〇〇八年に最後に訪問して以来、十五年間訪れなかったのだ。

その間に日本では東日本大震災があり、私は石巻で復興のお手伝いめいたことをし、一方、ソロモン諸島はますます人口が増えて、通い始めたころ三十万人だったものが七十万人を超えた。海外で働く人が急増したのもその間で、エディさんも二〇一八年から九年間オーストラリアの農場で働いた。

その間、エディさんの家族は、子どもたちが育ってバラバラになった。当初幼児だったE君は、首都のホニアラに出て、そこで小さな商いを始めるがうまくいかず、現在ホニアラの高級ホテルでドライバーの仕事をしている。同郷の女性と結婚し、現在養子の女の子を育てている。

弟のS君は、現在オーストラリアで農園労働者として働いている。その妹Bちゃんは、結婚し、村から乗り合いトラックでで二時間くらいの別の村に住んでいる。その村に今回訪れたが、やさしそうな旦那さんで、私は正直ホッとした。そのまた妹のTちゃんとRちゃんも結婚して、遠くの村に住んでいる。

末っ子はタイスケ君。そう、私の名前を引き継いだ（ソロモン諸島ではたいてい名前の一部に近しい誰かの名前をつける）。タイスケ君は中学校修了後高校に進もうとしたが（ソロモン諸島では高校まで行くと「学歴が高い」ことになる）、ちょうど新型コロナ・ウイルスで学校が開かず、進学はあきらめ、親のすすめでニュージーランドへ出稼ぎに出かけた。現在ニュージーランドはソロモン諸島民に、一年弱の合法的な「季節労働者」のステータスを与えている。タイスケ君は昨年からそのステータスでブドウ農園にて働き、今年戻ってきた。労働はなかなかきつかったという。しかし、近いうちに再度出かける予定だ。

「老夫婦」になったエディさん夫妻は、現在、孫のS君と友人の孫J君とともに暮らしている。J君の事情は少々複雑だ。遠くチョイスル島という島で生まれたが、両親が離婚し、ホニアラで母方の祖父と暮らすなどしていた。十四歳のときにエディさんの村に来て、ここの中学校に通っている。チョイスル島の言葉で育ったので、最初ここの村の言葉は分からなかった。そして来年はまたチョイスルへ戻ろうとしている。

村で十五年前と違うのは、各戸、小さなソーラーパネルから電気を得ていることと、携帯電話がつながること（とてもつながりにくいけれど）だ。また、住民たちは、畑に費やす時間より、ビンロウジュを売るなどの小商いに費やす時間の方を確実に増やしている。

人びとの生活はあいかわらずとても不安定で、その中でそれぞれの家族が奮闘しているのは三十年前も今も変わらない。

宮内 泰介（みやうちたいすけ）
1961年生まれ。さっぽろ自由学校「遊」共同代表。北海道大学教員（環境社会学）。ソロモン諸島、北海道、宮城などで、環境、生活の調査中。

さっぽろ自由学校「遊」 からのお知らせ

会場＆オンライン併用講座（2023 年 11 ～ 12 月開講分）

（会場記載のないものは愛生舘ビル５Ｆ 501 会議室にて）

カール・マルクス著『資本論』を読む ★チューター　宮田和保
② 11/1（水）18:45~　③ 12/6（水）18:45~

マイナンバー制度をを考える
② 11/2（木）18:45~　マイナンバー制度の拡大と地方自治の未来　★稲葉一将
③ 12/7（木）18:45~　市民にとっての望ましいデジタル社会とは？　★内田聖子

日本の植民地主義を考える ―共につなぐ未来のために part2
② 11/6（月）18:45~　なぜ、朝鮮人が戦犯になったのか　★内海愛子
③ 12/4（月）18:45~　私にとつての天皇制　★朴実

札幌オリパラを考えよう part2
② 11/7（火）18:45~　オリパラ誘致に見る代表民主政治の病理　★森啓　※ 講師が変更になりました
③ 12/5（火）18:45~　市民自治と住民投票　★高橋大輔

20 世紀を切り開いたアイヌ列伝 part4
② 11/8（水）18:45~ 「アイヌ新聞記者」高橋真　★竹内渉
③ 12/13（水）18:45~　詩人・思想家・作家・翻訳家・史家で活動家の新谷行　★竹内渉

中国語で読み解く東アジア ―連鎖視点を用いて ★講師　朴仁哲
① 11/14（火）18:45 ～

このままでいいの？ 再生可能エネルギーの進め方 part13
② 11/16（木）18:45~　石狩市関連洋上風発を含めた北海道内の風車問題　★佐々木邦夫＆安田秀子
③ 12/21（木）18:45~　北海道における海ワシ類のバードストライク　★齊藤慶輔

LGBT 理解増進法が成立した今、知りたいこと
② 11/17（金）18:45~　今、話そうパートナーシップ制度について　★工藤久美子
③ 12/15（金）18:45~　訴訟の歩みとそれが生み出す社会的インパクト　★中谷衣里＆皆川洋美

先住民族の森川海に関する権利 3 ―川とサケとアイヌ民族
② 11/20（月）18:45~　石狩川―三つの産卵床の今昔　★小坂 洋右
③ 12/18（月）18:45~　浦幌十勝川下流域におけるサケ漁の権利　★差間正樹

安保３文書を読み解く ★講師　北村公一
① 11/22（水）18:45~　安保３文書と現状と問題点
② 12/20（水）18:45~　米国の「国家安全保障戦略」と現状と問題点

出版文化の可能性 ―北海道から全国に向けて発信しよう **part2**
② 11/24（金）18:45~　本づくりの舞台裏―企画から出版まで　★井上哲
③ 12/22（金）18:45~　新聞社の本づくり　★仮屋 志郎

人と動物との共存・共生をめざして part3
② 11/28（火）18:45~　植物性食品と栄養、動物との関係　★森映子
③ 12/26（火）18:45~　タンチョウレスキューの現場から　★飯間裕子

言葉から考える琉球・沖縄の植民地化
② 12/8（金）18:45~　ウチナーで日本語を話している事は当たり前？　★知念ウシ

越境する人と文化を通して読み解く東アジア Ⅵ ★講師　朴仁哲
② 12/12（火）18:45~　山梨県を事例として

事務局便り

関東大震災から１００年。まったく罪のない数千人の朝鮮人が市民や警察、軍隊によって虐殺された事件について考えるため、私もこの夏からできるだけ講演会や資料館、さらには現場にも足を運んでいます。

残された生存者らの証言。それは日本人でいることが耐えられなくなるほどの残虐さでした。東京都墨田区の荒川堤防下に建つ「追悼之碑」を訪れた時には、せっかく震災を生き延びたのにこの場所で無残に命を奪われた朝鮮人の恐怖や無念が体に染み込んでくるような衝撃を感じました。高麗博物館で買い求めた「関東大震災　朝鮮人虐殺の真相」という本の中の、当時、「朝鮮駐屯軍帰りの在郷軍人」が幅をきかせていたという記述。朝鮮人を虐殺した日本人と、独立のため闘う人民を武力で鎮圧した日本人が重なり、虐殺と植民地支配との密接な関係を実感しました。

多くの証言や公文書から目をそらし、虐殺を否定しようとする政府の姿勢は、歴史の改ざんであり、植民地支配の正当化。つまり、植民地主義は私たちがまさに今、直面している課題なのです。本年度後期も続く講座「日本の植民地主義を考える」などでさらに認識を深め、植民地主義の清算のため行動していきたいと思っています。

（飯島秀明）

さっぽろ自由学校「遊」 からのお知らせ

オンライン開催講座（2023 年 11 ～ 12 月開講分）

講座のお申込は、
https://ssl.form-mailer.jp/fms/9fff511f795829
より申込フォームにご記入のうえ、送信ください。

ベーシックインカムを再考する ―生活保障と脱成長との関係から
② 11/3（金）19:00~　ベーシックインカム井戸端会議―生きづらさを考える　★細谷 洋子＆俵屋年彦
③ 12/1（金）19:00~　ベーシックインカム運動史　★山中鹿次

なぜイギリス・ＥＵで学ぶのか ―１年以上滞在してみえてきたことは？
② 11/4（土）19:00~　栄養・食事をテーマに公衆衛生向上を目指し研究しています　★鈴木友理
③ 12/2（土）19:00~　ベルギーを中心としたヨーロッパの歴史や文化を学んでいます　★井戸静星

Let's Talk! 世界と出会う英語 ★アンドレス・パトリシアン
毎月第二・第四月曜 19:00~

タシハンボン / もういちど ハングル ★コ・ソンギョン
毎月第二・第四木曜 19:00~

内科・神経内科
札幌中央
ファミリークリニック
外来一般診療
月火木金9:00～11:30
札幌市中央区南１条西11丁目
ワンズ南一条ビル６Ｆ
TEL. 272-3455

生活クラブは、
ちょっと変わった
生協です♪
モットーは
「おいしくてカラダによくて
自然を壊さない」です
生活クラブ北海道　検索

さっぽろ自由学校「遊」 からのお知らせ

会場開催講座（2023 年 11 ～ 12 月開講分）

（会場記載のないものは愛生舘ビル５Ｆ 501 会議室にて）

ワークショップで共に学ぶ ―世界と「北海道」の開発・多様性・未来

於：愛生舘サロン（愛生舘ビル６Ｆ 南側奥）

② 11/11（土）14:00~　これって「地球にやさしい」の？東南アジアの熱帯林から　★黒田峻平、八木亜紀子

③ 12/9（土）14:00~　ティフ星人がやってきた !?　★渡邉圭、八木亜紀子

老いと向き合う part10

② 11/3（金）14:00~　民生委員のお仕事　★若月久美子

③ 12/8（金）14:00~　終の住処を考える　★桜谷妙子、成田好江

「遊」版うたごえ喫茶 2023　於：愛生舘サロン（愛生舘ビル６Ｆ南側奥）

② 11/17（金）14:00 ～　③ 12/15（金）14:00 ～

読書室 よりみちまわりみち

② 11/18（土）14:00~　③ 12/16（土）14:00~

アイヌアートデザイン教室　★講師　貝澤珠美

毎月第二・第四水曜　13:00~

美味しい講座　縄文を食べる２　★講師　俵屋年彦

12/5（火）18:45~　於：コミカフェ加伊（東区北 39 東 17、1-27）　※ 申込はコチラ →

編集後記

「関東大震災 100 年」を「ゆうひろば」で特集することの重さを、改めて感じています。正直、迷いもありました。しかし、差別分断状態にある日本の現状を見るとき、より良い未来を切り開くために、避けては通れない問題であると思っています。（た）

ゆうひろば
発行：NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」
〒 060-0061　札幌市中央区南１条西５丁目　愛生舘ビル５Ｆ 501
・郵便振替口座：　02780-5-47036（名義：自由学校「遊」）
・TEL:011-252-6752
・FAX:011-252-6751
・syu@sapporoyu.org
・http://www.sapporoyu.org
web サイト　ＦＢページ